久慈農業改良普及センターだより

あぐりあす

普及センター情報　200 号
平成 20 年 8 月 29 発行 久慈農業改良普及センター
TEL：0194-53-4989　　FAX：0194-53-5009
e-mail:ce0026@pref.iwate.jp

～お知らせ～
普及センターホームページが移転しました。検索画面にて‥　久慈農業改良普及センター　公式　検索

○学校給食に地元の食材を（久慈広域）○

8 月 5 日洋野町大野のグリーンヒルおおのを会場に、「学校給食への地元食材提供に向けた研修会」を開催しました。

今回の研修会は、産直生産者・学校栄養職員・関係機関を対象とし、先進事例の研修や意見交換等を行い、産直活動を通じた地元食材の利用について考える取組みの一つとして開催しました。

当日は 33 名の出席があり、先進事例として奥州市教育委員会事務局の千葉副主幹兼主任栄養士、奥州市野菜キューピットの会代表高橋会長から、生産者と学校栄養職員が密に連絡を取り、取組みを進めてきたこと、価格は市場価格を参考に生産者が提示していることなど具体例を含めて紹介していただきました。

先進事例に熱心に耳を傾ける参加者

意見交換では、「利用したいが、種類・量が足りない」「少ない給食費の中でも何とか知恵を出して地元産を使っていきたい」などの率直な意見が出されました。

今後は、研修会で明らかになった課題を整理しながら、生産者側では野菜の品目を増やす等の取組みを進めることやこのような情報交換を続けていくことが確認されました。

○産直ゆうきセンター　エコファーマー集団認定（洋野町）○

7 月 23 日、洋野町大野庁舎においてエコファーマーの集団認定式が行われました。認定されたのは全員道の駅おおののキャンパス内の産直“ゆうきセンター”に出荷している生産者です。新規認定、内容変更を合わせて 20 名が認定され、安心して食べられる農産物の生産と消費者から信頼される生産者になることについて改めて確認をしました。

ゆうきセンターは町が掲げる「ユーキの里作り」構想の中核施設として、地域資源の循環利用と安全・安心な農産物の提供を心掛けており、会員のエコファーマー取得は消費者に対して目に見える具体的な取り組みの一つでもあります。現在、エコファーマーコーナーの設置が検討されており、来年からは認定を受けた 18 品目の農産物がコーナーを賑わすことになります。

認定書交付式

生産者の顔が見える農産物が求められるなか、ゆうきセンターでは産直ならではの消費者と距離をおかない生産と、より信頼される販売所を目指し、これからも活発な活動を続けていくことにしています。

○久慈地方４Ｈクラブ　～北海道へ視察研修～（久慈広域）○

研修光景１コマ：函館酪農公社にて

７月 20～21 日の１泊２日の日程で久慈地方農村青年クラブ連絡協議会（通称：久慈地方４Ｈクラブ）主催で北海道南部への視察研修が行われました。本研修は、青年クラブ員独自の企画による研修で、農業青年クラブ員間の連携強化や将来の地域のリーダー育成を目的に行われたものです。

参加した農業青年は酪農や肉牛繁殖に従事する農業者も多かったことから、研修内容は畜産関係を主体に視察を行い、１日目には㈱函館酪農公社と公社に生乳を出荷している金子牧場を見学しました。酪農公社では、生乳の買入れは生産者から直接行われており、牛乳の販売については移動販売等も行われていました。また、契約牧場では Non-GM（非遺伝子組み換え）飼料給与や清潔な牛舎コンクールの実施による優良農家への乳価反映など様々な取り組みが行われていました。多数の観光客が訪れ、牛乳製造過程を見学し、同社製の牛乳やアイスクリーム、チーズを購入していたのが印象的でした。２日目には、約 7,000 頭の肉牛肥育経営を行っている㈲大沼肉牛ファームを視察しました。大規模経営のため、牛舎の設計も同じに、機械等も全く同じものを使用し、清潔な環境のもと飼育を行っていました。また、「安全・安心な牛肉生産」をモットーとした経営方針のもと、消費者を農場に招くなど積極的な情報発信が行われておりました。

研修先では、クラブ員からも積極的に質問が出ており、規模や経営形態の違いはあるものの、見聞を広め、自家の経営を見つめ直す良いきっかけとなったようでした。

○　エコファーマーへの道　その２　○

「エコファーマーって儲かるの？」

エコファーマーに認定されると農業改良資金の償還期間の延長（10 年→12 年）と、マークを生産物に付けエコファーマーが生産したものとして販売することができます。よく高く売れるのか？という話も伺いますが、基本的にマークが付いているから自動的に高く売れるということはありません。このマークはあくまで生産者の栽培に対する姿勢の証であり、化学肥料だけに頼らず堆肥を使用して土作りに取り組み、栽培方法の工夫で農薬使用量を減らすなど環境に優しい農法に苦労しながらもまじめに取り組んでいることを示すものです。

また、消費者が品物を選ぶ上で一つの目安にもなるので、ある程度の生産量をまとめることができればエコファーマーの統一ブランドとして差別化して売ることもでき、継続して出荷できるようになれば安定した取引も可能となり、さらにマークも包装や結束帯のデザインにしてしまうなど対策がとりやすくなります。グループ出荷など取り組まれている生産者の方は検討してみてはいかがでしょうか。

○産直の名（迷）物を求めて○

ミルク、ヤマブドウ、塩、炭・・・！？
さて、この単語はなんでしょう？

「ソフトクリーム（久慈広域）」

実は久慈管内の道の駅や産直で売られているソフトクリームなんです。管内に限らず、今や各地域には特産を材料にしたソフトクリームがたくさんあり、ソフトクリームから地域農業などが見えてくることも？あるかもしれません。特色満載のアイスクリームを食べ歩きながら、産直や道の駅巡りを楽しんでみてはいかがでしょう。

写真は戸呂町産直の炭ソフト

○　ちょっと待った！　○

― シゲさんの農薬の正しい使い方講座 ―

被害が出てからの防除は気をつけて

娘：「とーさん、あそごのハウスのホウレンソウ、葉っぱに穴あいでだ！」
父：「どれ、見でくるべ」

・・よく見ると、開いた葉にケナガコナダニの食害（小さな穴）があります・・・

父：「コナダニだな、シンクイにならねで葉っぱが開ぐど、こうなるんだ。」
娘：「そしたら、早ぐ殺虫剤をかけるべし！」
父：「あがねー、もう遅い。」
娘：「なして？」
父：「こごを虫が食べたのは、だいぶ前だし、今から防除しても（被害葉は）減らない。それに○○△□乳剤の使用基準は収穫１４日前までだもの。」
娘：「・・・収穫の時に、より分けるしかないの？」
父：「次に種まく時は、早めに防除を始めればいいって、クワさんに言われたよ。」

アシスタントのクワさん

アブラムシやシロオビノメイガなどは、発生が目立ってきてからの殺虫剤散布でも効果があります。しかし、ケナガコナダニは発芽直後から見えないところで加害を始めるので、予防的に生育初期（本葉２枚）から、所定濃度で薬液を十分量散布します。

○　技　術　情　報　○

◇◆　ほうれんそう　◆◇

９月～10月は、台風や秋雨前線の影響により、降雨が多く、べと病の発生が心配されます。また、近年は、集中的な豪雨が多く見られるようになっていますので、これまで以上の排水対策をとり、ハウスへの浸水を防ぎ、べと病の予防を徹底しましょう。

台風が近づく場合は、強風被害が心配されます。ハウス支柱の補強やビニールの補修等、万全の対策を行いましょう。

１　品種

◎ハンター（９月上旬～９月下旬）・・・立性で収穫しやすく、低温伸長性が良好ですが、10月以降の播種には適しません。べと病レース１～７に抵抗性あり。ミストラルより葉の色が濃く収量性も高いです。

２　施肥（30坪ハウス１棟あたり）

		４作目	５作目	６作目
ＢＢぼかし８２２	年５作	３ｋｇ	０ｋｇ	
	年６作	３ｋｇ	２ｋｇ	０ｋｇ

※最終作は無肥料です

３　病害虫防除

ハンターはべと病に強い品種なので、予防散布を１回行えば、十分に防除できるでしょう。お盆すぎからシロオビノメイガが多発しています。虫食いのあとを見つけたら早めに防除を行ってください。ケナガコナダニも春に続き多発が予想されますので、本葉出始めからの防除を徹底してください。

◇◆ 水 稲 ◆◇

☆ 早すぎる落水は品質低下の原因になりますので、「間断かんがい」を行いましょう。
☆ 適期収穫に向けて登熟状況をよく観察しましょう。
☆ 稲刈りが順調に行えるよう事前に収穫機械・乾燥機等の点検を行いましょう。

１．出穂状況（管内平均） ：始期８/９、盛期８/12、終期８/16

今年は最終葉数が平年より１枚多かったこと、また７月下旬や８/10頃からは気温の低めの日も見られ、出穂は平年に比べかけはしで３～４日、いわてっこも２日程度遅れました。

２． 落水時期

早すぎる落水は収量のみならず品質を落とす原因になります。根の活力を保ち、登熟を良くするため「間断かんがい」を行いましょう。

落水時期の目安は、排水の良い水田で出穂後35日頃、排水の悪い水田では出穂後30日頃です。

３ 収穫機械等の点検と適期収穫

適期収穫が行えるようにバインダー、コンバイン、脱穀機、籾すり機、水分計等について取扱説明書にのっとって事前に点検・整備し、故障個所は早めに修理しておきましょう。

４ 収穫適期

適期に収穫ができるように登熟状況をよく観察しましょう。収穫適期は、黄化籾割合が80～90%が目安です。

◇◆ 花 き ◆◇

１ りんどう

花腐菌核病の防除時期です。この病気は着色期以降の花弁にのみ感染します。防除間隔が空かないよう予防散布に努めて下さい。降雨が続く場合はわずかな晴れ間をぬっての薬剤散布が必要です。

必要のない花を咲かせておくことは株養成・病害虫防除の観点からマイナスです。収穫しない花は折り取って圃場外での処分を徹底しましょう。

２ スプレーギク

スプレーギクは花色・花形の種類が豊富でアレンジメント需要に対応したきくです。ハウス栽培で、電照やシェードによる短日処理を行うことにより開花調節が可能なことが大きな特徴です。

久慈管内では13名の生産者がお盆、秋彼岸の需要期に合わせた栽培を行っています。平成18年からは安定販売に向け、八戸花きとの相対販売に取り組んでいます。スプレーギクの栽培に興味のある方は普及センターに相談してください。

◇◆ ヤマブドウ ◆◇

○収穫作業

簡易糖度等を利用し、房の先端の粒が15%程度になるのを確認して収穫しましょう。

収穫は晴れた日を選んで行い、腐敗粒、虫害粒、青未熟粒、割れた粒を取り除きましょう。収穫した果実はすみやかに出荷もしくは冷蔵保存しましょう。ただし、冷蔵後も速やかに出荷、加工をしましょう。処理が遅れると発酵が進み、糖度が落ちることがあります。

○収穫後の管理について

収穫後も来年の芽の充実のために葉は１ヶ月は残しておきましょう。

ブドウトラカミキリ対策のため、特に樹齢５年程度までの若樹には、収穫後にサッチューコートＳ（100倍）やモスピラン水溶剤(2,000倍)を使用しましょう。使用方法はそれぞれの薬剤のラベルに従ってください。